

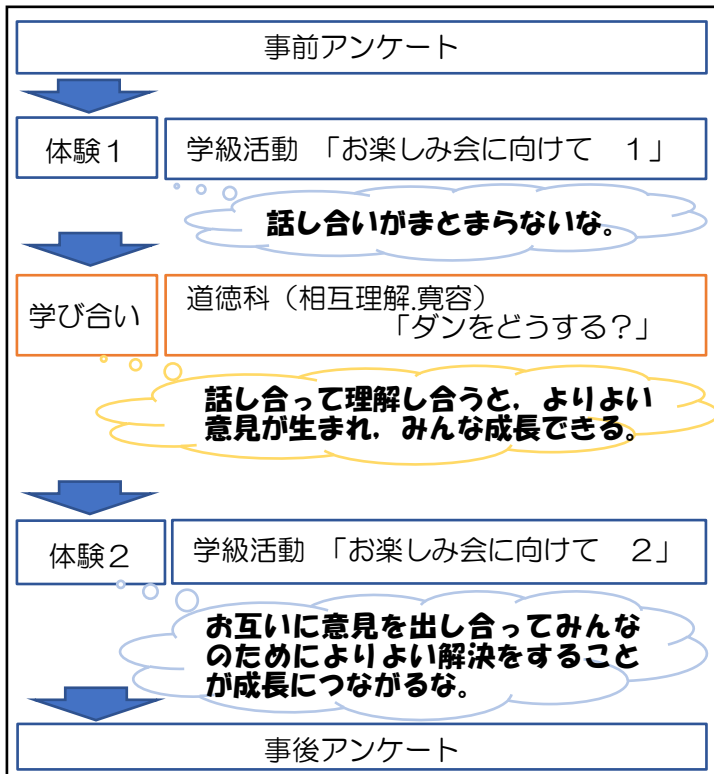
●実際の取組～授業実践～

○ 居酒屋道德の実現に向けて

◇ 「違いは豊かさを生む」育成プログラムの実践

居酒屋道德を実現するためには、「違いは豊かさを生む」という考え方をもつことが必要だと考え、その価値観の発見・納得を促すプログラムに全校で取り組んだ。

6年生の実践例（相互理解，寛容）



＜アンケート結果（事前・事後の変容）＞

色々な他者と理解し合うことは
どうして大切だと思いますか。

【事前アンケート】

- ・お互いに理解できないままの生活では困るから。
- ・人は1人では生きていけないと思うから。
- ・物事が平等に決められるから。

【事後アンケート】

- ・そうやって社会は成り立っていると思うから。
- ・今とは違う思いや考えが生まれるかもしれないから。
- ・理解できると信用ができ、協力もできるようになるから。
- ・理解し合ってこそ、仲間だから。
- ・理解し合うことは互いへの尊敬を表していると思う。

色々な他者と理解し合うために
どんなことが大切だと考えますか。

【事前アンケート】

- ・意見を何でも受け入れること。
- ・相手の気持ちをよく考えて、折り合いをつけること。

【事後アンケート】

- ・他の人の意見を否定せず素直に受け入れたり、自分と違う意見をもっとプラスの方向に、たし算で考えたりすること。
- ・自分も相手も他者も素直に意見を言い合える環境が大切。
- ・自分の気持ちをはっきりと伝える。



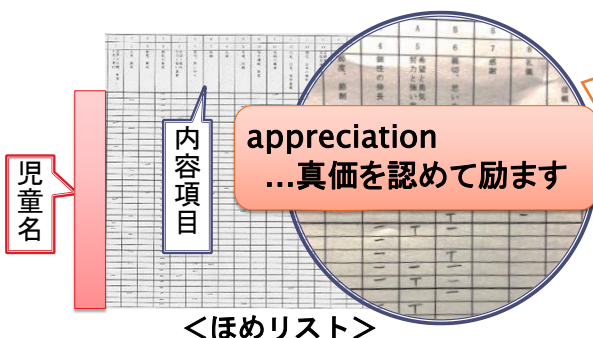
道徳教育推進教師の提案内容

中学年～高学年になると、人と意見が違うことを恐れたり、まわりからどう見られるかを気にしたりするあまり、思っていることが言いづらくなる様子が見受けられる。互いに「異なる意見は貴重なもの」として受け止められるようになれば、話し合いが活発になると考え、各学年で同様の学びを得られる教材でプログラムを組んだ。

◇ ほめリストを活用した子どもの理解

児童が自分の意見や本音を語り合うことができるようにするため、「自分にはいいところがある」と個々が自分に自信をもつことができる「一人一人が認められている学級づくり」を目指した。

また、教員が学級全員の良さや変化・成長を見取り記録することで、子どもの理解を深めたり授業に生かしたりできると考えた。そこで「ほめリスト」導入した。内容項目を観点に挙げ、それぞれの児童が持つ真価を認め励ましている。



道徳教育推進教師の関わり

それぞれの児童に合った声掛けや、今までとは異なる一面を見つけるなど、多面的に子どもの姿を見るために低中高別の「ほめリスト」を作成した。

「一人につき、2つ以上の項目からほめる」など目標を設定し、教員が児童の良いところを見る習慣をつけている。

また、懇談で保護者に児童のよさを伝えるメモとしても活用している。